

第 8 回 飯南町総合振興計画等策定委員会 議事録

開催日時・場所	日時：令和 6 年 1 月 31 日（金）10:00～12:00 場所：飯南町役場本庁舎 2 階大会議室
議 事 次 第	1. 開 会 2. 委員長挨拶 3. 議 事 （1）第 3 次飯南町総合振興計画（案）本編について ・ 飯南町議会全員協議会、パブリックコメントの意見報告 ・ 前回からの修正内容の説明 （2）第 3 次飯南町総合振興計画（案）概要版について （3）委員挨拶 4. 町長挨拶 5. 閉会
配 布 資 料	・ 議事次第 ・ 委員名簿 ・ 第 7 回策定委員会_議事録 ・ 第 7 回策定委員会意見への対応状況 ・ 第 3 次飯南町総合振興計画（案）本編・概要版



【出席者名簿】

番号	所属団体組織等		委員	備考
1	飯南町自治区長連絡会	会長	石橋 洋司	
2	飯南町社会福祉協議会	地域福祉課長	吾郷 由美子	
3	飯南町商工会	事務局長	加津山 幸登	
4	飯南町農業委員会	会長	今岡 和登	
5	飯南町 PTA 連合会	副会長	板垣 正行	
6	山陰合同銀行	赤名出張所所長	勝部 美穂子	
7	山陰中央新報社	編集局次長	万代 剛	
8	島根県中山間地域研究センター	主任研究員	東 良太	
9	島根県情報システム推進課	CIO 補佐官	林 正知	
10	住民委員		大島 孝子	
11	住民委員		影山 和典	
12	住民委員		芥川 優子	
事務局		町 長	塚原 隆昭	
	まちづくり推進課	課 長	藤原 清伸	
		主 幹	岡田 祐也	
	(株)コスモブレイン (業務委託業者)	代表取締役	大内 智弘	
		技術部計画課 技術員	上代 美帆	
		技術部計画課 技術員	松谷 蒼馬	

【議事録】

1. 開 会

2. 委員長挨拶

石橋委員長	約1年半、皆様の意見を伺いながら、それを事務局の方で計画に反映していただき、本日に至っている。 本日は事務局から最終案の提示がある。皆様から意見等を伺った上で、承認をいただきたいと思います。限られた時間なので、すべての意見を言うことはできないかもしれないが、よろしくお願いいたします。 本日の会が最後と考えている。議事後、皆様方から、総合振興計画に対する意見や考え方などを一言ずついただき、まとめとしたい。 その後の流れとしては、最終案としてまとめれば、町長の方に答申という形になる。私が代表して答申という形になるが、皆様方の意見も町長に聞いていただきたいので、本日同席してもらう予定となっている。
-------	---

3. 議事

(1)第3次飯南町総合振興計画（案）本編について

（事務局説明記録省略）

林委員	p.32 スポーツの部分について、ソフトボールを推している理由を記載すべき。飯南町が2030年に開催される国スポのソフトボールの会場になるということを追記で記載すべき。 「施策の目標」と「主な取組」の部分に対応しているものとしていないものがある。例えば、エコロジー米の作付面積を拡張するという目標に対応した取組が記載されていない。森林セラピーについては、セラピー基地の維持・保全や新規セラピーガイドの育成など対応する取組の記載してある。エコロジー米については、2-1農業の振興に紐づくと思う。また、3-2地域医療の維持・充実の目標に一人当たりの医療費（国保）を下げるという取組に繋がっているのか分からない。 目標と取組を対応させた方が読んで人にとっては、改善しようとしている意図が伝わると思う。
事務局	ソフトボールについて、追記を追加するなどして修正する。 目標と取組については、わかりにくい部分があると思うので、内容を確認してわかりやすい表現に修正する。
林委員	「いいなんチャレンジ」と大きく記載してあり、読む方は注力すると思うので、取組みが紐づいていた方がよい。
吾郷副委員長	以前、10年後の姿をイラストで示してほしいという意見を出し、反映して頂いたこと、また、イラストも飯南町にあったものになっており、とても見やすい

	と思った。 p.56 について、先日地域共生社会の推進協議会に出席した時に、関西大学の教授が計画の中に地域包括ケアの取り組みが入っている地域は少ないとおっしゃられていたが、飯南町は入っていてすごいと思った。 地域包括ケアは、医療、福祉、介護、地域が助け合って、一体となって進めるものであることから基本施策3-2は「地域医療の維持・充実」ではなく p.57③「地域包括医療・ケア体制」が適切であり、「地域医療の維持・充実」が施策の内容になると思う。 p.77 について、コンポスの説明が記載されていてわかりやすいと思うが、J-クレジットの説明が記載されていないので、説明を追加して欲しい。
事務局	p.56、57 について、担当課と協議する。 J-クレジットについては、p.46 が初出であり、そこに注釈があるが、再掲するかどうか検討する。
東委員	p.83 について、②まちづくり支援人材の配置・育成の「まちづくりを担う中間支援組織の自発的な活動を支援します」の部分、中間支援組織の注釈が必要だと思う。 「中間支援組織の自発的な活動を支援します」と記載してあるが、島根県は中間支援組織自体が全国と比べて少ないので、中間支援組織の活動の支援だけではなく、育成についても記載してほしい。 p.34⑤本に親しむ環境づくりについて、中山間地域研究センターにも図書館があり、私はその館長をしている。学校帰りのこどもが来たり、農業や林業、畜産などの専門的な本が置いてある。町立図書館との役割分担のような形で、蔵書を入れる際にも重なる部分を無くすような連携をしているので、そのようなことを記載して欲しい。土曜日以外は毎日空いているので、利用促進にもつながると思う。
事務局	修正内容について検討する。
石橋委員長	林委員の目標と取組の対応という意見だが、具体的な取組が違う基本施策に記載されている場合もある。医療費を下げるのは、様々な取組の結果であり、違う分野の取組も効果的だということになるかもしれない。 対応する取組の記載が無いから目標やめるのかというと、そうではない。現時点で効果的な対応策がないにしても、目標があれば、行政職員も町民も目標を認識して取り組むことができると思う。 最終案について、事務局で修正できる部分は修正、追記等をして、最終答申という形にしていだければと思う。 計画書としてはこれが最終案となるが、今後見直しも行われると思われる。今まで気が付かなかったことが顕在化し気づくこともあると思うので、運用の部分に委ねるということも重要だと思う。最終案を承認いただけるか採決したい。微修正に関しては事務局に一任するということで、承認いただける方は挙手をお願いします。

	(挙手多数) 本日の意見を反映し可能な限り修正をしていただきたい。運用の中で顕在化した問題点や対応策は、実施計画の段階で見直していただきたい。
--	---

(2)第 3 次飯南町総合振興計画（案）概要版について

(事務局説明記録省略)	
石橋委員長	概要版が町民の皆様が届くという考えでよいか。
事務局	概要版は全戸配布する予定である。
勝部委員	本編は全戸配布するのか。
事務局	全戸配布はしない。
勝部委員	本編があることに気づかない町民の方がいると思う。概要版に本編があるということを記載した方が良いと思う。
事務局	概要版の裏面にQRコードを掲載し、飯南町のホームページで確認できるようにする予定である。
勝部委員	紙媒体で欲しいという方への対応はどのように考えているのか。また、デジタルだとわからない人もいるのでQRコードを掲載するだけでなく、電話での対応も考えた方が良いと思う。 概要版ということが分かるように、表紙に「概要版」と追加した方が分かりやすいと思う。
事務局	概要版と表記する。
影山委員	「みんなが取り組む」を町民に知ってほしいが、概要版には「みんなが取り組む」の記載がない。 町民一体となってやるべき取り組みだと考えるので、経費はかかるかもしれないが、本編も全戸配布して欲しい。
事務局	令和6年度の予算で動いており、現実的には難しいところがある。全戸配布が可能かどうかは、即答できない。 全戸配布できない場合は、別の形での対応を検討する。
板垣委員	本編を全戸配布するのは難しいと思うが、「みんなが取り組む」の部分を見ることができないのはもったいない。 QRコードだけでは、若い人しか見ることができないと思う。 本編の宣伝を大々的にするべき。概要版に写真入りで宣伝文句をつけた本編の宣伝コーナーを追加してほしい。 概要版に、問い合わせ先や本編がどこでもらえるかなども記載して、多くの人が本編を認識して、見たいと思った人が見られるようにするべき。
事務局	検討する。
大島委員	網羅された情報や取り組みが記載しており、可愛いイラストもあるので、学生や

	飯南町から出ていこうとしている人にも読んでもらえるような取組みをしてほしい。
勝部委員	計画書の中にはデジタル化を進めていくということが記載してあったが、QRコードを使えない方には知ってもらえないと思う。QRコードの読み取り方法やスマートフォンの使い方を教える場を設けることも、デジタル化につながると思う。高齢者の方はスマートフォンを持っているけれども、一部の機能しか活用できていない人が多くいるので、サポートできる体制をとるべきだと思う。行政がサポートする機会や相談窓口があれば、町民の方が本編を読んでもくれると思う。
林委員	私は飯南町の公式ラインを登録している。飯南町の公式ラインを活用して、1年間はワンクリックで本編を見ることができるようにしておいて欲しい。 基本構想と総合戦略で出てくると思うが、位置づけがわかりにくい。概要版に総合戦略の目標も記載したほうが良いのではないかな。
事務局	位置づけについての記載が薄いので、検討する。
加津山委員	1－2 飯南町にふさわしい教育環境づくりとなっているが、「飯南町にふさわしい」という言葉はすべての項目において枕詞としてつくと思う。表現はこれで良いのか。
事務局	私もどこにでも当てはまる言葉という風に思ってはいたが、教育委員会に熱い思いがあると理解して、そのままにさせていただいている。
万代委員	1年半前からずっとタイトルのフレーズを考えていた。「生命地域」というキャッチフレーズは飯南町では知られてはいるが、人を呼ぶのは見出しだと思う。「消滅可能性都市」という言葉があるが、その反対である「消滅不可能都市」「消滅不可能地域」などいろいろな見出しを考えた。 飯南町では、自然や動物、植物など人間以外のものにリスペクトして、学習に取り入れたり、中山間地域研究センターなど素晴らしいものがたくさんある。一貫して飯南町で暮らす人は少ないかもしれないが、小中一貫して教育に力をいれておられ、外の地域に必要な人材を輩出されている。そして、最後は飯南町に帰ってきて、何かしらの形で貢献していただけるような、循環する地域になってほしいという思いを「生命地域」に込めてほしい。 本編の余白に、脳トレや飯南町クイズを追加してはどうか。私は新聞を作っていて、クロスワードなど付録をつけると、普段新聞を読まない人でも、付録をきっかけに読んでくれる人も出てくると思う。冊子は一度作ると更新できないと思うが、デジタル版は更新できるので、検討していただきたい。 小中学校のテストで、飯南町に関する出題をしたり、飯南高校では総合的な学習の授業の中で教材として計画書を使用したりする。例えば地域おこし協力隊を8人から10人に増やすという目標があるが、本当にそれで飯南町は良くなるのか、という議論を高校生にしてもらい、役場の人にも勉強になるような議論をしてもらう。計画書を具体的に活用することで、読んでもらえるような仕組みを継続的に作っていただきたい。 PRについて、どうしたら読んでもらえるか、計画を作って終わりではなく、

	仕掛けを色々考えていただきたいと思う。
石橋委員長	デジタル版を面白い形にして活用する方法は良いと思う。これでデジタルの普及率があがればさらに良いし、それによって興味を持っていただけるというのも大事な手段の1つだと考える。 概要版だけでは、委員会での1年半にわたる議論や意見が十分に伝わらないという思いもあるかと思う。本編をできるだけ多くの人に届けてほしいという思いはその辺りからも来ていると思っている。
林委員	表紙の部分を塗り絵にして、子どもたちに塗ってもらいコンテストを開催していただきたい。 飯南町は余白がある町と言っているので、メモができるような余白を追加して欲しい。

(3) 委員挨拶

勝部委員	昨年の3月から参加させていただいている。短い期間だったがとても有意義な時間を過ごせたと思っている。飯南町と今後も関わりを持っていけるような素敵な冊子ができた。 あまり意見は言えなかったが、委員の皆さんと今後も飯南町のことを一緒に考えることができれば良いと思う。
勝山委員	1年半、委員の皆さんと定期的に議論させていただく中で、皆さん1人1人が飯南町の将来に向けて危機感、あるいは、愛着を持っておられることが良くわかった。10年先がどのような姿になっていくか、ということを描いて、計画を作り上げたが、その姿を実現してほしいと思っている。 1人1人を大切にするという考え方を、教育や人づくりの部分に反映していただいたことを感謝している。
今岡委員	私も70半ばなので、10年先がどのようなになっているのか期待しながら、楽しみに見させていただきたいと思っている。これからの飯南町が計画通りにいくように願っている。
板垣委員	私が1番新参者で、昨年の5月からPTA関係から引き継いで参加させていただいた。役場の方には、好き放題言ったことを上手に計画にまとめられ、非常に関心、感動している。 飯南町で暮らして20年、現在子育ての最中で、この計画のど真ん中にいる人間だと思っている。この委員会に出席し、町全体がこういう風に動いているということを経験させていただいた。また、委員1人1人の考えを経験させていただいた。こんな貴重な機会をいただいたことを本当にありがたいと思っている。 この計画が皆さんに伝わるように面白いアイデアもいっぱい出たので、ぜひとも役場の皆さんの今後のご活躍を期待したい。
万代委員	一貫して、外部から好きなこと言わせていただき、この場を借りてお詫びしたい。 新聞ではよく政治や行政の指標として、人口減少に歯止めがかからないという

	ことを、紋切り型でよく取り上げているが、個人的には一切気にする必要はないと思っている。人はいずれいなくなるし、自然減はどうしようもない。1人1人が生きていて良かったと思えるかどうかということだと思う。 役場の皆さんには計画を作りっぱなしにするのではなく、この計画の持つ意味を理解して、今後に活かしていただきたいと思う。
芥川委員	一住民として参加させていただき、委員の皆さんの得意分野の話をたくさん聞いたことはとても有意義だったと思う。 行政の方々が計画を立て、このように町を変えていきたいということを住民が私事として捉えて、「みんなが取り組む」を考えていく必要があると思った。 私たちにできることという意識付けの計画でもあるということを皆様に周知することが1番大事だと考えている。
大島委員	私は小学校の1年の時に父の仕事の都合で飯南町を出て、高度成長期や学生時代、結婚などを町外で過ごして帰ってきた。色々なところを見てきたからこそ、思うところも出てきたと思う。 アンケートの中で飯南町の高校生たちが一見はマイナスと捉えられるような部分を素晴らしいと感じていることに感銘を受けた。 家族の育て方や地域の育て方、中山間地域の生命地域、そういう理念のもとで学んでいるということがあってこそだと思う。飯南町の良さを知っていることがとても大事なことだと思う。 大きく変えるということではなく、良いところをさらに良くしていく、良さを守るために変わっていく。町外へ出る高校生も町内に残る高校生もこの飯南町の良さを知っているからこそ、将来色々な形で飯南町を守ってくれると思う。
影山委員	私がどうして色々な会議に出るのか。地域の中では出たがりなど、言われることも多々あるが、私の中で真に思っていることは、繋ぐということ。 何へ繋ぐのかというと、1番は我が子など次の世代に繋げる。そのためにどうしていけばいいのか、今の自分はどうするべきかを考えて、会議や仕事をしている。 私には子どもが3人おり、今のところ3人とも自分たちは絶対に飯南町にいると言っていた。一番下の娘が修学旅行で東京に行ったが、「あんなところは住む所じゃない。飯南町が一番。」と言っていた。長男にしても、飯南町から一時は出るがその先は飯南町と。次男も飯南町に、と言っております。 小さなことだが家庭の中から発信したり、飯南町の中で集中できることを見つけたりすることが一つあると思う。それが我が家では、伝統芸能・神楽だと思っている。 この計画に携わった自分のこれからの役割としては、私たちができることを広めていく。そこに重点を置いてやっていこうと思っている。
林委員	デジタルという観点で参加していたが、デジタルはあくまで1つの手段であり、必ずしも全てをデジタルにすべきとは思っていない。アナログの良いところは残し、デジタル活用して効率化し、トランスフォーメーションしていけばいい

	と思っている。 職場でも話すが、今の子どもたちはギガスクールという教育の中で、デジタルが身近にあり、何でもデジタルでやるような環境で育っている。職場では紙が残っていたり、面倒くさい手続きがある中で、今の高校生や中学生の子どもたちが県庁に入ってきたら、「まだこんなことやっているんですか。僕らはもう全てデジタルでやっていましたよ。」という日があと数 10 年後ぐらい来る。近い未来にはデジタルが当たり前の世代が周りに溢れてくるのが目に見えているので、飯南町も乗り遅れないようにしていかなければならないと思っている。 島根県の人口が 60 万人を切り生産年齢人口が減っていく中で、仕事をこなしでいこうと思うと、デジタルに頼らなければ回らないところがあると思う。 飯南町が楽しく持続していくためには、デジタルの力もどんどん活かして、この計画に基づいて進め、そのような町になればいいなと思っている。 私はこの計画を策定した 1 人でもあるので協力していくが、10 年後の飯南町を楽しみにして過ごしていきたいと思っている。
東委員	飯南町に来て 4 月で 10 年目になる。中山間地域研究センターでずっと勤務している。人口減少という傾向は変わらない中で、これからどうしていくべきかということをこの計画と重ね合わせながら考えていた。 人口は減っていくが関係性や共感、信頼、繋がり、そういったものが増えていくような地域社会にしていかなければいけないと考えている。阪神淡路大震災から 30 年が経ち、石川でも昨年地震があった。地震の影響で、地域の人口減少が 30 年進んだと言われている。飯南町でもいつ災害が起きるかわからない。そのような中で、普段の繋がりをどう強くしていくか。普段から飯南町外に住んでいる方、地域内の皆様、1 人 1 人との繋がり、そういったものをしっかりしておくことによって、災害が起きた場合でも、立ち向かう力になっていくと考えている。 計画の策定はゴールではなくてスタートだ。この計画をどのように住民に広めていくか。この場にいる人、1 人 1 人がどのようなことができるのかをもう一度考える必要がある。私も転勤がない職員で飯南町にずっと住む中で、この計画を地域に伝えていきたいと思っている。 中山間地域研究センターの地盤である飯南町の総合振興計画に携わった以上、これをしっかりと、地域の中にも、外にも発信していきながら、色々な関係を飯南町に作っていけたらと考えている。
吾郷副委員長	人口はどんどん少なくなっていくが、きらりと光った飯南町を目指して皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っている。 町民が自分の事として地域を作っていくというようになっていくよう、この計画の PR をしていきたいと思っている。 私はい～にゃんはもちろん推しているが「余白あります。」も大変推している。是非表紙に「余白あります。」を追加していただきたい。
石橋委員長	委員長ということで、どうやったら皆さんから意見を出してもらえるか心配していたが、そんな心配は全く不要だった。色々意見を出していただいたが、十分

	にまとめられなかったり、私の解釈でまとめたこともあったかと思う。その件についてはお詫び申し上げたい。たくさんの意見が出た、活発な策定委員会になったと思う。 私は自治区長の代表として参加した。アンケートを回答されない方や住民説明会にも出られない方などの意見が把握できなかった人が、果たしてどう考えているのか、というのを念頭に置いて、議論に参加していた。その点が十分に反映できたかはわからないが、このような議論を進める上での課題として考えていく必要があると感じた。 今回の総合振興計画で、私が大事にしてもらいたいのは基本理念と将来像。基本理念の「生命地域宣言」は、議論の中で、今の時代に合った解釈に、ということで基本理念として定めたと思っている。将来像についても、色々な考えの中の中から選んだものである。これから10年間の計画を進めていくことになるが、将来像をイメージしながら進めていただきたいと思う。手つかずではなく、人の営みを感じられるような農村風景を今後も維持すること。その価値観を感じ取れるような地域であってほしいという思いから、この将来像が出来上がっていると思う。昨今の人口減少や高齢化から考えると、10年後にこれを達成するのは非常に大変なことだとは思いますが、10年後もこのような飯南町であり続けられるように、行政、町民一体となって取り組んでいく必要があると考える。 先ほども意見があったが、この計画がゴールではなくてスタートということで、活用していただければと思う。
--	--

4. 町長挨拶

塚原町長	約1年半、総合振興計画の策定委員会、委員の皆様には、お忙しい中、本日で8回目になる会でございますが、熱心にご議論いただきまして、大変ありがとうございました。 途中からこの場に座らせていただきましたが、本当に最後の最後まで皆様の有意義な意見をも頂戴いたしましたし、非常に熱い思いも感じさせていただきました。この委員の皆様で議論していただいて、本当に良かったと改めて思わせていただきました。 この計画につきましては、令和7年度からのスタートということで、10年間の計画であります。基本理念は、合併した時から変わることなく、「小さな町からの『生命地域』宣言」を継続しております。今後の10年もこの思いを持ってまちづくりを進めていきます。 将来像につきましては、「笑顔と誇りを未来につなぐ町 飯南 ～豊かさの継承と創造への挑戦～」サブタイトルもつけていただきました。私は、町長として1期目が終り、2期目が30日からスタートしております。選挙の公約でも、この将来像を強い思いをもって、ポスターにも掲載させていただきました。 総合振興計画に記載してあるものの中から、重点政策として5つの公約を挙
------	--

	げております。計画にあるものの中で特に重点的に取り組みたいということで公約にも挙げています。 本日の話を聞きますと進行形と言いますか、計画自体も少しずつ前に進んでいくようなイメージを持ちました。この思いを行政と町民が一体となって、共有しながら、計画に基づいたまちづくりを進めていくということを、改めて本日決意したところでございます。 私も先頭に立って、飯南町の発展、そして住民、福祉の向上に向けて頑張っていますので、引き続き委員の皆様には、この計画の PDCA サイクルであったり、評価の部分でもまた関わっていただくこともあります。 この会はここで終わるのはもったいないような気がして、同窓会的ものが今後あるのかわかりませんが、そういったことで色々な関わりを持たせていただいて、ご協力いただければと思っております。 意を尽くしますが、本当にこの間のお礼ということでご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。
--	--

5. 閉会

事務局	今後のスケジュールについて、2月7日金曜日に町長に答申をいただく予定としている。可能な限り、本日いただいた意見を汲んだ修正を行い、事前に皆様に報告をさせていただいてから答申いただくような流れにしたいと思っている。 2月7日に臨時議会で全員協議会がある。議会での意見に対応する必要がある場合は、事務局に一任させていただきたい。
-----	--